MDP

MATCHDAY PROGRAM

明治安田 J1 LEAGUE

2024明治安田J1リーグ 第21節
@駅前不動産スタジアム

2024 Season 12

6.30(日)

19:00 KICK OFF
vs 柏レイソル

©1996 .H.K.REYSOL

揺らがぬ信念。たくましさを増すレフティは何度でも壁を乗り越える

MF 7

手塚 康平
Kohei TEZUKA

「すべてにおいて充実していた」。加入2年目となった昨季は手塚康平にとって確かな成長を実感したシーズンだった。創造性に優れたサッカーセンスと高い位置で安定した技術水準、そして、左利きという希少性を備えた手塚だが、一方で運動量や球際での強度など技術以外の部分が課題となってきた。ただ、一昨年、サガン鳥栖にやってきたのはそんな自分を変えるため、より強くなるためだった。シーズン途中に環境を変える難しさはあったが、鳥栖には自分が望んでいたものがあった。練習から切り替えの速さや強度を意識し、選手同士が高め合う。川井健太監督を筆頭にコーチ陣の要求する水準も高い。そんな環境に必死に食らいつき、水に慣れると手塚は成長を実感し始める。昨季第14節新潟戦で初先発するとそこから12試合連続で先発。「監督が起用してくれるようになったということはフィジカル的な要素の部分も含めて自分が良くなったところがあったから」。自分を変えることを望んでやってきた鳥栖で得た評価を手塚は素直に喜んだ。

しかし、昨季終盤はサブに回る機会が増えると今季も序盤は控え、あるいはメンバー外になる日々が続いた。それでも、手塚は揺らがなかった。鳥栖には自分を変えるためにやってきた。その思いがあるからこそ、壁が立ちはだかったくらいで動じるわけにはいかなかった。そこには鳥栖に来て以来、ブレることなく、一貫して自分を変える取り組みを継続してきた自信と実際に変わった手応えがあったからだろう。開幕当初の苦しい日々にも「前への意識はずっと変わらずに取り組んでいく」とメンタルは一切、ブレなかった。そして、今季初先発となった第8節G大阪戦では先制点をアシスト。続く、第9節鹿島戦でもセットプレーからアシストを記録するなど努力し続けてきた成果をピッチで示してみせた。壁が何度でも立ちはだかろうとも手塚が揺らぐことはない。自分を変え続ける背番号7はさらにたくましさを増し、鳥栖の勝利に貢献する。

基山町 presents

基山町応援DAY
～みんなで応援!がんばれ!! KIYAMATCH～